

都市の水辺空間と集客観光

石森 秀三

Written by
Shuzo Ishimori

ニュージーランドのクライストチャーチは「ガーデンシティ」と呼ばれる美しい庭園都市である。都心を流れるエイボン川は、水の透きとおった美しい川だ。朝早くにホテルを出て、川端を散歩すると気分が爽快になる。昼間であれば、英国風の「パンティング」

と呼ばれる舟遊びを楽しむこともできる。都心における水辺の安らぎ空間は、市民にとっても、ビジターにとっても貴重である。日本人にとって、ビルが建ち並ぶ都心で、美しい水辺が確保されているのは奇跡的という感じがする。日本であれば、川は埋め立てられて、貴重な都心の土地に変えられていたことだろう。

韓国のソウルでは今、「水と緑の都市再生」プロジェクトが進められている。都心を流れる清溪川は、第二次世界大戦後の都市化で清流の汚染が進んだために、川の上に8車線道路が造られ、その上部に高架道路が建設された。近年、高架道路の老朽化や環境保全の動きの高まりを受けて、現在のソウル市長イ・ミョンバク氏が、同プロジェクトを市長選の公約に掲げて、2002年に当選した。8車線道路の中央4車線が封鎖され、コンクリートの道路を引きはがして、6kmに及ぶ河川復活を図るという大胆な都市改造が実施され、2005年秋には完成予定だ。河川復元をテコにして、国際金融や集客観光の拠点としてのグレードアップが目指されている。イ市長は都市改造を成功させて、2007年の次期大統領選に立候補の噂が流れている。

米国テキサス州のサンアントニオは、ジョン・ウェイン主演の映画「アラモ」で有名になった都市。テキサスの自由を勝ち取るために189人の男たちがアラモ砦で戦った。現在では、バセオ・デル・リオ(川の散歩道)と呼ばれるリバーウォークの街として有名だ。ダウントウンの中心部を曲がりくねりながら流れるサンアントニオ川と運河の川辺を再開発して、水辺の賑わいを演出した。川岸には多数のレストランやショップがあり、デキシーランド・ジャズやラテン・ミュージックの演奏が流れる。年間に300日が晴れるという気候が、水辺の魅力的な集客空間に味方している。

大阪市でも「水都の再生」が大きな課題になっている。集客観光の面でも、2003年に、道頓堀川、東横堀川、土佐堀川、木津川で構成される「水の回廊」を巡る水上観光ルートが開設され、約3万人の乗船があ

った。2004年秋には「秋の舟運まつり」が企画され、天下の台所と呼ばれた大阪における舟運の再現、河川への愛着の呼び戻しが意図された。この他、道頓堀川の水辺整備、花と緑・光と水を活かしたイベントの実施なども計画されている。

大阪で水都の再生が進められるのは良いことだ。されど大阪には、クライストチャーチのように都心の水辺を愛する市民がまだまだ少ないし、ソウル市長のように大胆なリーダーシップを発揮する政治家がいないし、サンアントニオのような晴天続きの気候という味方もいない。亀の歩みが兎の走りに勝ることを信じて、水都再生の成就を祈念したい。

CEL



クライストチャーチの都心近くでの「パンティング(舟遊び)」
(提供：ニュージーランド観光局)

石森 秀三(いしもり・しゅうぞう)

国立民族学博物館文化資源研究センター長。1968年甲南大学経済学部経済学科卒業。オークランド大学大学院に留学後、京都大学人文科学研究所研究員、国立民族学博物館助手、同助教授、同教授などを経て、2004年より現職。専門は、観光文明学、文化開発論、博物館学。観光立国懇談会委員(内閣府)、文化審議会専門委員(文化庁)などを歴任。主な著書・編著書は、『博物館概論:ミュージアムの多様な世界』(放送大学教育振興会)、『観光の20世紀』(ドメス出版)、『南太平洋の文化遺産』(千里文化財団)など。